

鳳徳だより

令和7年度
全国学力・学習状況調査
特別編

令和7年10月
京都市立鳳徳小学校
校長 坂井 仁



4月に6年生児童を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の結果をまとめました。今年度は、教科に関する調査として、国語・算数・理科・質問紙調査として、学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施しました。

《国語》

全体的によくできています。特に「書くこと」では正答率が高かったです。書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたりすることができました。日ごろからGIGA端末の資料を見ながら自分の意見や考えをまとめる活動を授業の中で行っています。文章や資料から読み取る力や書く力が育っていると考えられます。一方「言葉の特徴や使い方に関する事項」の設問の、漢字の書き取りで課題が見られました。これらの結果から、基礎的な知識をより確かにするために、教材文の中で新出漢字の使い方や読み方を確認する学習活動を大切にしていきたいです。

《算数》

全体的によくできています。特に「変化と関係」についての問題が大変よくできていました。この問題では伴って変わる2つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさや求め方を式や言葉を使って書く問題でした。算数科の授業では、問題の解き方について式や言葉を使って自分の考えを伝えあう時間を持っています。子どもたちは自分の意見を表現する事に慣れていると考えられます。全体的に全国平均よりも高い到達率でしたが、本校の児童の一番到達率が低かった問題は、分数の加法について共通する単位分数を見つける問題でした。問題文が長く、問われていることを読み取ることが難しかったようです。視覚的に分かりやすい資料に慣れていますが、読書にも親しむようにし、じっくりと文章を読む力を身に付けていくように取組を進めていきたいです。12月には読書週間の取組もありますので、ご家庭でも読書に親しめるようにお声かけをお願いします。

《理科》

全体的によくできています。特に「地球」「生命」を柱とする問題は大変よくできていました。「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して表現する問題」について本校児童の到達率が高かったです。ここでも資料から読み取れることを基に自分の考えを表現する力が身に付いていることが分かりました。一方、「エネルギー」を柱とする問題では苦手が見られました。身の回りの金属で電気を通すもの、磁石に引き付けられるものについての知識が身に付いているかを問う問題で到達率が低かったです。実際の実験を通して体験したことを知識として身に付けていくように、単元のまとめなどの学習を工夫したいです。

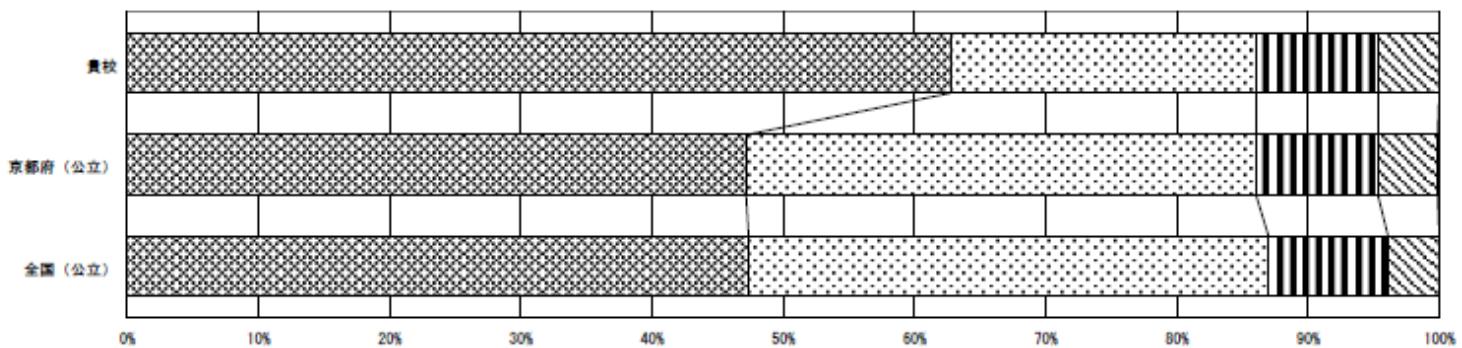


《児童質問紙調査から》

「自分にはよいところがあると思いますか」という質問で15.5ポイント、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問では9.3ポイント全国平均を上回っていました。本校児童は、自分のよいところを認めながら、友だちとの違いも認め合おうというとしていることが分かりました。「互いを認め合い 自分の考えをもち 表現する子の育成」という学校教育目標に向かって今後も授業改善を続けていきたいと考えています。

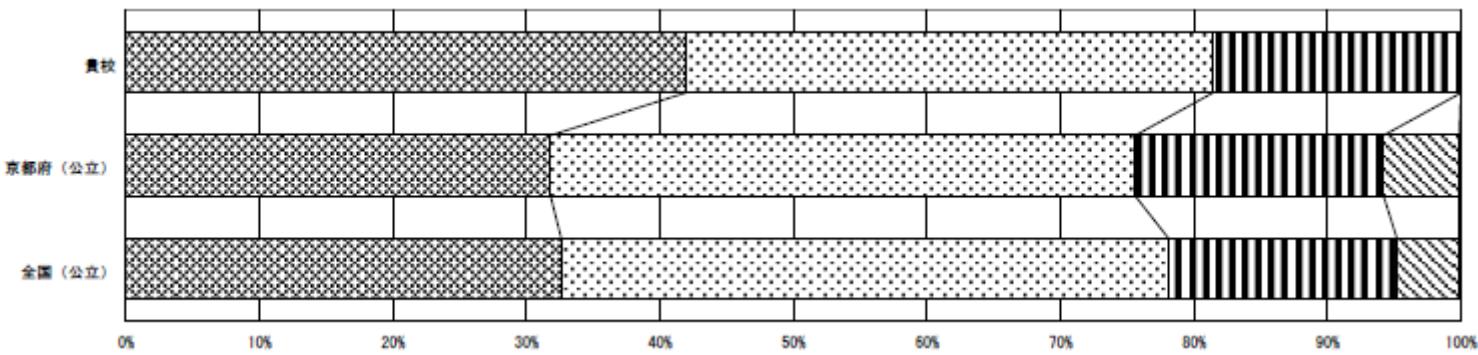
● 「自分にはよいところがあると思いますか」

1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかというと当てはまらない 4. あてはまらない



● 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」

1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかというと当てはまらない 4. あてはまらない



《保護者の皆様へ》

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。日ごろのご家庭での指導・支援ありがとうございます。引き続き、子どもたちのすこやかな育ちと学びの環境づくりにご協力ををお願いいたします。

